

# 「やりたい！」を見つけて、夢中になって遊び込む子を育む ～園児とともにを行う環境構成の工夫～

浦添市立牧港こども園  
保育教諭 眞境名 葵

## 1. 園の概要

本園は、浦添市牧港に位置し、海外の産物や文化を受け入れた琉球最古の貿易港として栄えていた場所にある。そのような由緒ある地に立つ本園は、昔の人々が歴史に関わり、異文化を取り入れ、新しい文化を広めた人々と大きくかかわっている。そのため、本園では、歴史や文化に大きくかかわった人々の心を受け継ぎ、「幼児一人一人の発達の特性を生かした幼児の育成」を目指して教育・保育に取り組んでいる。

本園は、3年保育を行っており、3歳児20名、4歳児24名、5歳児30名が在籍しておりそれぞれの学年が単学級である。園庭は、大きなガジュマルにビオトープ、土山と、自然を存分に感じられる環境である。その園庭には、季節の生き物が集まり、環境を通して行う保育が実践されている。また近隣の保育施設や企業とも交流を行い、地域で共に育つ子を目指して交流を深めている。各クラスの集団活動とともに、異年齢の園児同士が関わる活動も適切に組み合わせて園生活を実施している。

## 2. 主題設定の理由

子ども達の生活環境の中にゲームやスマートフォンなどの電子機器が増えてきており、遊びの環境が大きく変化している。ゲームや動画を見たりすることは、受け身になることが多いため、自ら遊びを考えたり、遊びの中で試したり工夫したりしながら遊びを発展させていくという機会が減少している。また、友達と一緒に遊ぶ環境も減ってきており、幼児のコミュニケーション力の低下も感じる。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説の「人間関係」の領域のねらい(2)には「身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ」と示されている。

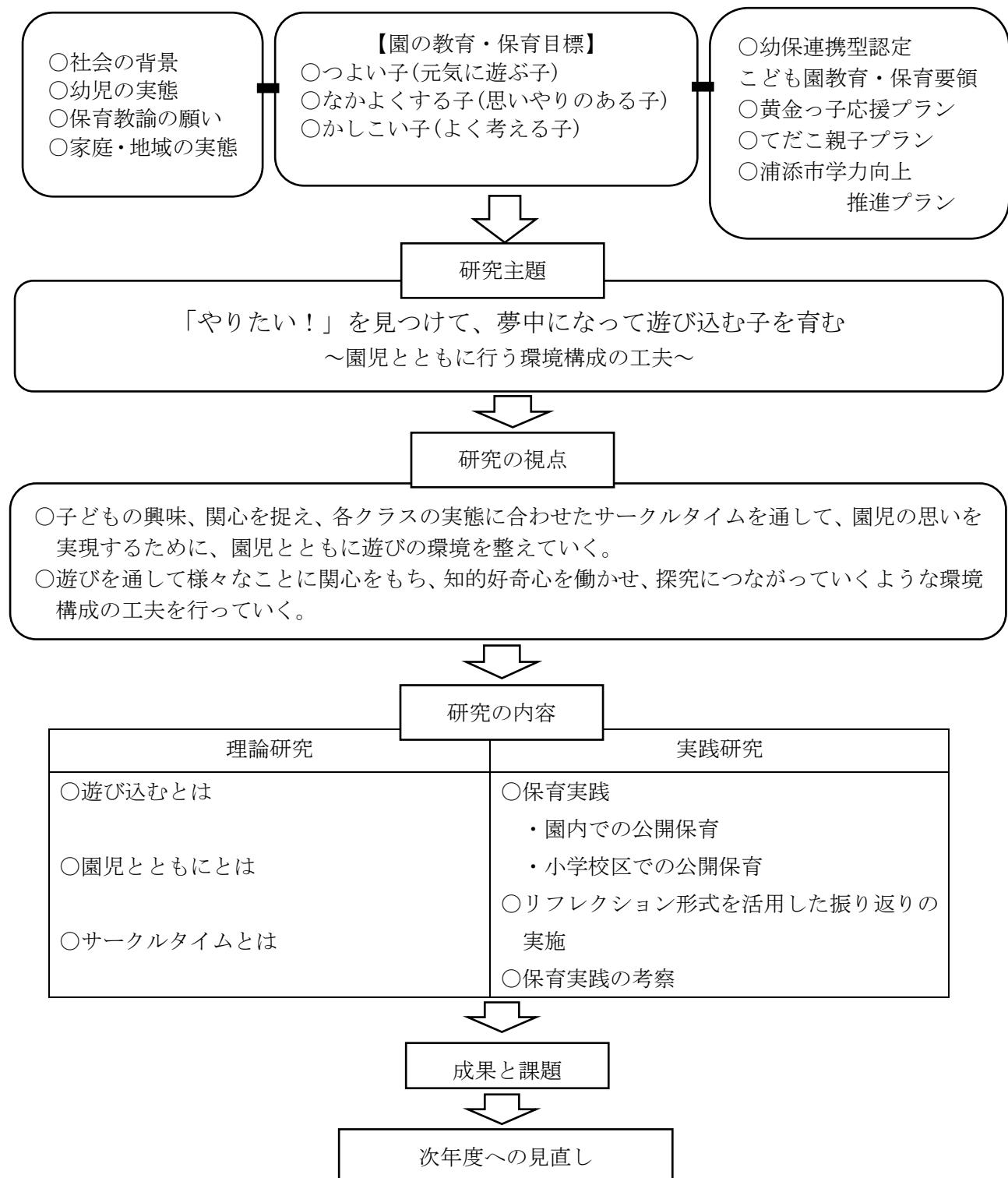
本園の実態として、好奇心旺盛で様々な活動や遊びに積極的に取り組む一方で、遊びが続かず、転々としながら過ごしている姿が見られる。また、遊びの中で作りたいもの、試してみたいイメージがあるものの、なかなか言葉で表現できず、難しい場面になると途中で諦めてしまったり、友達が同じ遊びをしていることに気付かず、個々での取り組みになり、遊びが広がりにくいという課題が見られる。

自分のやりたいことを見つけて、試行錯誤することや、「面白い」「不思議だな」「なるほど」をたくさん見つけることは、遊び込む上で大切と考える。また、それを保育教諭や友達と共有したり、必要な道具や材料を他者に知らせ共に準備したり、考えを出し合いながら遊びを進めることで、遊びの楽しさを味わい、遊びに夢中になると考える。そこで、各クラスの実態に合わせたサークルタイムを通して自分の思いや他者の思いを受け入れ、ともに環境構成の工夫を行っていくことで「主体的で対話的な深い学び」となり、それが「夢中になって遊び込む子」へつながっていくだろうと考え、本テーマを設定した。

### 3. 研究の視点

- 子どもの興味、関心を捉え、各クラスの実態に合わせたサークルタイムを通して、園児の思いを実現するために、園児とともに遊びの環境を整えていく。
- 遊びを通して様々なことに関心をもち、知的好奇心を働かせ、探究につながっていくような環境構成の工夫を行っていく。

### 4. 研究の構想図



## 5. 主題の捉え

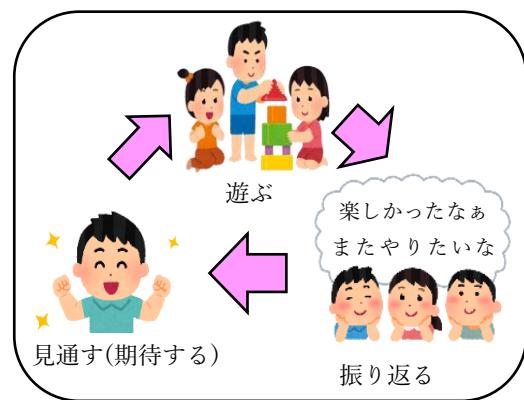
### (1)遊び込むとは

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の「自立心」では、「身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる」と明記されている。

「遊び込む」とは、子どもが自ら主体的に遊びに取り組み、試行錯誤しながら遊びを発展、継続していく姿と捉える。遊び込むことで子どもは興味関心、探究心、自己表現、他者理解、協同、共感等の様々な経験を積み重ね、深い学びにつながると考える。

### (2)園児とともにとは

子どもが遊びを継続し、発展させ、遊び込むことに向かうプロセスには、遊ぶ→振り返る→見通す(期待する)→遊ぶ、といった遊ぶことと振り返ることの循環が必要である。園児とともに、保育の振り返りを行う。その方法として、各クラスの実態に合わせたサークルタイムが有効と考える。



### (3)サークルタイムとは

園生活の中の様々な場面でサークルタイムを大切にしている。大豆生田(2022)は、「クラス集団などで輪になって対話を行う活動」をサークルタイムと言い、「子どもの主体的な活動としての遊びを発展させていく」とする保育においては、今日の遊びを明日の保育につなげる共有と対話の時間としての話し合いがより重視されることにつながった」と考えている。本研究においても、子どもの多様な声を聴き合いながら、遊び込んでいくようなサークルタイムの持ち方を工夫して行う。

#### ①サークルタイムの取り入れ方

- ・遊びが始まる前→遊びへ興味関心が見られた時に取り入れる。
- ・遊びの途中→自分の考えや友達の考えに気付き、試行錯誤しながら遊びを進めていく。そして、共に環境構成の工夫を行っていく。
- ・遊びの振り返り→満足感を味わったり、友達の話を聞いて新たな興味関心を高めたりし、遊び込むへつなげる。

#### ②サークルタイムを進めていくことで重要なこと

- ・子ども達が自分の気持ちや考えを話す場ではあるが、保育教諭は話し合いを見守りつつ、時にファシリテーターとして進む方向性を導くことも必要と考える。しかし、答えを求める。
- ・何でも話していい雰囲気作りを大切にする。また、発言することだけを参加していると捉えるのではなく、話さない子の存在も尊重し、場を共にしている一人一人の内の声も大切にしていく。
- ・話し合った内容を、紙等にまとめ、言語化したり可視化したりし、いつでも振り返ることができるよう環境構成を行う。

## 6. 実践事例

(1) 3歳児

### 【紙飛行機を作つてお友達と競争だ～】 年少児 6～8月

#### ●育っている力「幼児期の終わりまでに育つてほしい姿」

- |                        |             |                |                |
|------------------------|-------------|----------------|----------------|
| ① 健康な心と体               | ② 自立心       | ③ 協同性          | ④ 道徳性・規範意識の芽生え |
| ⑤ 社会生活と関わり             | ⑥ 思考力の芽生え   | ⑦ 自然との関わり・生命尊重 |                |
| ⑧ 数量・図形、標識や文字などへの関心・感覚 | ⑨ 言葉による伝え合い | ⑩ 豊かな感性と表現     |                |

※幼児期の育つ力は様々な視点が関連し合つて培われるものであるが、便宜上関連の深い姿を色で示す

#### ●実践事例

#### 保育教諭の援助

入園当初の子どもたちは、それぞれがレゴブロックやプラレール等の既製の玩具を手に取り、個々で遊ぶ姿が多く見られた。

6月頃になると、年長児・年中児がチラシで作った剣や紙飛行機を飛ばして遊んでいる姿を見て、保育教諭に「あんなの作つて～」「お兄ちゃんたちと同じの作つてちょうだい」との声があり、「一緒に作つてみる?」「同じの作つてみようか?」と声をかけることで新たな遊びの広がりが生まれた。

子ども達が思い思いにチラシ遊びが楽しめるよう、形や大きさの違うチラシを準備することで子どもたちは自分の好みに合わせて素材を選び製作活動を楽しむようになった。また保育教諭が紙飛行機の作り方教室を行う事を伝えると、数人が参加していた。しかし紙飛行機教室を何度か開くとしばらくは遊んでいるが、すぐに飽きてしまい紙飛行機は床に落ちたまま、拾う姿も見られなくなり次の遊びへ移行する日々が続いていた。

7月頃、紙飛行機を作り飛ばしていた子ども達から「もっと、遠くに飛ばしてみたい!!」との声が出てきたので、「自分達が作った飛行機がどこまで飛ぶか競争で飛ばしてみよう!」と保育教諭が「紙飛行機競争スタートライン」と名付け床に線を引き、数人で飛ばし競争を楽しめるようにした。

紙飛行機遊びが広がる中で、毎回遠くまで飛ばせる子に「すごいね!どうやって折ったら遠くまで飛ぶようになったのかな?」と声を掛けると「みんなに紙飛行機の作り方教えるよ」との言葉が聞かれた。また子ども同士で紙飛行機作りを教え合つてほしいという願いから「紙飛行機の作り方を教えてもらおう」と話し合いを行い、子どもたち同士の紙飛行機作り教室が始まった。紙飛行機作りでは、互いに会話を楽しみながら紙飛行機作りをする姿が見られるようになり、更にクレヨンで絵を描いたり、セロハンテープで翼をくっつけたりする等、いろいろな工夫をする子も出てきた。

紙飛行機教室を通して初めは2～3人だったちびっこ先生が「ぼくも先生みたいに教えてあげる」と言って飛ばし方を周りの友達に教える等、クラス全体的な遊びへと発展していった。

次の日には「おうちでも作つてきたよ」と嬉しそうに話しながら紙飛行機を持ってくる子の姿もあった。また、園で作った紙飛行機を家に持ち帰り、親子で一緒にシールを貼ったり、形を変えたりし「こっちの方がカッコよくなつた」と自慢げに話す子もいた。保育教諭は「おうちでも楽しんできたんだね」「今日はどんな風に飛ぶかな?」と声を掛け、家庭と園での遊びのつながりを意識して関わつていった。

その後も、子どもたちは紙飛行機の他にチラシで剣を作り「小さい剣と大きい剣を合わせてみよう」とポーズをとりながら遊ぶ等、引き続き製作遊びを楽しむ姿が見られる。



身近な環境への興味・関心の高まり。

⑥思考力の芽生え

主体的な学びの芽生え。

⑥思考力の芽生え  
⑨言葉による伝え合い

興味関心の高まり。  
予想・予測・確認など深い学びの芽生え。

⑥思考力の芽生え  
⑨言葉による伝え合い

試行錯誤など、自分で考えてみる。

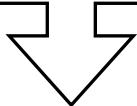
③協同性  
⑧数量・図形、文字等への関心・感覚

自分なりに紙飛行機のイメージを持ち、表現しようとする。

②自立心  
⑨言葉による伝え合い  
⑩豊かな感性と表現

## 《これまでの幼児の姿》

- 既製の玩具遊びは好きだが、それぞれその時々で作って遊ぶことに満足し、棚の上に飾ってもそのままにしている子も多く、遊びがなかなか継続しない。
- 製作遊びに興味関心はあるものの、いろいろな素材に触れたり作ったりする経験が少なく、自分なりのイメージを持つことができないでいる。



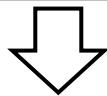
## 環境を通して行う教育

### 《保育教諭の援助》

- 子どもたちの「遊びたい」「自分もやってみたい」という思いがいつでも実現できるよう興味の広がりを受け止めしていく。
- 子どもたちの遊びが長く続くように、遊びを進める中で子どもたちの思いや声をひろいながら、子どもたちと環境作りを行った。
- 保育教諭に「作って」と頼っていた子が、友だちと一緒に作って楽しめるように小集団での話し合いを楽しみながら行った。
- 「出来ない」とすぐに諦めようとする子には、本児の気持ちに寄り添いつつ励ましたり、頑張っている姿を認める言葉かけをしたりして、「作ってみよう」という気持ちを高めるようにした。また難しそうな所は手伝いつつ、自分で出来た！という達成感も味わえるようにした。
- 子ども達の考えを引き出すように問いかけ、子ども達が自分の言葉で伝えられるようにした。

### 《環境構成》

- 子ども自身が主体的に選択したり試したりできるようコーナーを作り、大きさや長さ、形の違う複数のチラシを用意し仕分けした。
- 紙飛行機教室を行い、折り方を知りたい子は、いつでも折ることが出来る場を作った。
- 紙飛行機を飛ばせるコーナーでは、子ども達が自分達で飛ばし競争が楽しめるよう、スタートライン等を設定した。
- チラシ製作で必要な道具を子どもたちと考え、手に取りやすいところに置くことで、自分たちで必要な物をいつでも使えるよう環境を整えた。



## 《考察》

- 子ども達と保育教諭が対話をしながら一緒に作って遊ぶことで、紙飛行機を誰が1番遠くに飛ばせるかという競争が始まり、皆で会話を楽しみながら遊びが発展していった。
- 友達に紙飛行機の作り方を教える経験を通して、他の活動にも自信をもって参加する姿が見られるようになった。
- 自分で考えたり友達と一緒に考えながら製作が出来るようになったことで、友達との会話を楽しみながら遊ぶ様子が見られるようになり、遊びが今までとは違う新しい展開を見せるようになった。
- 遊びの中で対話をする機会を重ねることで、サークルタイムの土台となる自分の思いを伝えたり、他者の話を聞くことが育まれきていると感じる。

(2) 4歳児

## 【セミ捕りごっこ、楽しいな！】 年中児 4月～8月

### ●育っている力「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- |                        |             |                |                |
|------------------------|-------------|----------------|----------------|
| ① 健康な心と体               | ② 自立心       | ③ 協同性          | ④ 道徳性・規範意識の芽生え |
| ⑤ 社会生活との関わり            | ⑥ 思考力の芽生え   | ⑦ 自然との関わり・生命尊重 |                |
| ⑧ 数量・図形、標識や文字などへの関心・感覚 | ⑨ 言葉による伝え合い | ⑩ 豊かな感性と表現     |                |

※幼児期の育つ力は様々な視点が関連し合って培われるものであるが、便宜上関連の深い姿を色で示す

### ●実践事例

### 保育教諭の援助

5月頃から、園庭へ出ると蝶やバッタ等の虫捕りに夢中になって遊び、少しずつ友達との関り見みられるようになった。日々の中でサークルタイムを通して、楽しかった出来事などを、子ども達と振り返り「虫捕り楽しかった」「明日も虫捕りしたい」と自分の気持ちや感じしたことなどを伝え合い、明日の期待感へつなげていった。

7月セミの鳴き声に気付き「セミ捕りしたい」「抜け殻探したい」と興味・関心を示し、抜け殻を発見すると「見せて、どこで見つけたの?」「砂場の木の所で見つけた」と子ども達同士の会話が見られた。友達と関わりながら遊びを継続してほしいとの願いから、保育室にセミの図鑑や折り紙でセミが折れるよう折り方を掲示した。そのことに気付き、友達同士で図鑑を見て調べたり、折り方に挑戦したり楽しむ姿が見られ、セミ捕り遠足への期待感もあり遊びが継続していた。セミ捕り遠足の当日、雨天で中止になり「セミ捕りしたかった」と残念がる子ども達。「セミ捕りしたい!」と子ども達から声が上がり、サークルタイムを設け子ども達と相談をし、セミ捕りごっこをすることに決まった。保育教諭が「木はどんな形や大きか?」など子ども達とイメージを共有しながら画用紙で木を作る事になり、「木を触ったら、どんな感じかな?」「ザラザラしている」と手でちぎってクシャクシャにし工夫して作る。作った木をホールの柱や壁に貼り付け、「セミを飛ばしたい」と折り紙でセミを折ることになり、折り方を覚えている子が先生役になって教えた。また、分からぬ

子には「こうやって折って…」と、分かる子が優しく教える姿も見られた。その後、完成したセミを木に貼り付け、セミ捕りごっこを楽しむ。「何匹捕まえたかな?」「見て○匹、捕まえたよ」「たくさん捕まえた1.2.3…」と数えたり、友達に「もっと上」と声をかけて教えたり、虫籠を覗き込んで見せ合って「楽しいね!」と保育教諭も共感しながら一緒に楽しむ中で、笑顔がたくさん見られた。終了時間になり、子ども達とサークルタイムを通して「楽しい!もっとやりたい」「また遊びたい」との声が上がり、室内に飾ることになった。

好きな遊びの時間に、セミの折り方を覚えている子に「教えて」と言って、自然と教え合い関わって遊び、完成したセミを壁面の木にセロハンテープを使って、自分達で考えたり工夫したり協力して飛ばし、セミ捕りごっこその後も、継続して室内でも遊ぶ姿が見られるようになった。また、「虫捕り網を作りたい」と言って、自分で廃材コーナーから素材を選んで作る。チラシで棒を作り牛乳パックを使って網をクレヨンで描き「ハサミで切りたい」というので、安全面に配慮し見守りの中で行い、自分達で工夫して作り楽しむ。高い所はセミが捕まえられず届かないことに気付き、棒を2本にして長くしたり、セロハンテープでは上手く付かず「ガムテープの方が付くよ」と素材の違いに気付いたり、遊んでいる際に虫捕り網の棒が折れ曲がり補強して直す等、試行錯誤しながら夢中になって遊び込む姿が見られた。その後も虫への興味関心が深まり、遊びが継続し友達と一緒に虫捕りを楽しんでいる。



身近な自然に興味・関心を示し、進んで戸外で遊ぶ。

- ①健康な心と体③協同性  
⑦自然との関わり・生命尊重  
⑨言葉による伝え合い

自分の気持ちや感じたり考えたりしたことを自分なりに言葉で表現する。

- ⑦自然との関わり・生命尊重  
⑨言葉による伝え合い

いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。共通の目的を見いだし工夫したり協力したりする。

- ③協同性 ⑥思考力の芽生え  
⑨言葉による伝え合い  
⑩豊かな感性と表現

遊びの中で、数量や図形に関心を持つ。

- ⑥思考力の芽生え  
⑨言葉による伝え合い  
⑩豊かな感性と表現

友達との関りを深め、思いやりをもつ。友達と共に目的を見いだし、工夫したり協力したりする。

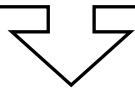
- ③協同性 ⑥思考力の芽生え  
⑨言葉による伝え合い

様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味関心を持つ。自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。

- ③協同性 ⑥思考力の芽生え  
⑦自然とのかかわり・生命尊重  
⑩豊かな感性と表現

## 《これまでの幼児の姿》

- ・好きな遊びを見つけて遊ぶが、それそれが好きな遊びを楽しみ、友達と関わって遊ぶ姿があまり見られず、遊びが続かなかった。
- ・自分の思いや考え等を上手く言葉にできず、話す場面で黙り込んでしまい、言葉にして表現することの苦手さが見られた。



## 環境を通して行う教育

### 《保育教諭の援助》

- ・子ども達が自ら「やりたい！」と思った事を実現できるよう、サークルタイムを通して子ども達と相談したり、必要な物を準備したり、自分達で主体的に環境に関わるようとした。
- ・サークルタイムを通して、子ども達の声や思いに寄り添って、安心して話せる雰囲気作りをし、楽しかった出来事を振り返り、自分なりの言葉で表現し伝え合う楽しさを味わいながら遊びが継続するよう、明日への期待感へとつなげた。
- ・いろいろな遊びの体験を通して、保育教諭も子ども達と一緒に楽しみ、イメージを共有しながら感じたことや思ったこと、喜び等を共感し言葉の伝え合いが出来るようにした。
- ・廃材を利用した製作では、セミ捕り網の改良や素材の違いに気付くなど、子ども達の「何故だろう？」「どうしたら、もっと良くなるだろう？」という疑問に対して、試行錯誤しながら遊ぶ姿を、保育教諭は見守ったり一緒に考えたりすることで探究心を高められるようにした。
- ・保育教諭が直ぐ教えるのではなく、子どもの良い所や特性を認め、お互いが教え合う関係性を育めるようにし、自信をもって行動できるよう援助した。
- ・虫捕り網やハサミなどを安全に使えるよう配慮しながら、その中で工夫したり新しいことに挑戦したりする楽しさを、友達と一緒に味わえるよう見守りの中で行い、必要に応じて援助をした。

### 《環境構成》

- ・遊びに必要な様々な素材の廃材や教材など、子ども達が自由に選んで取り出しやすいようにコーナーを配置し準備をする。
- ・保育教諭や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり話したり出来るよう、サークルタイムの場を設け、落ち着いた雰囲気の中で、皆の顔を見て、ゆったりと行えるようにする。
- ・遊びが継続できるよう、必要な物を子ども達と一緒に考え、アイデアを取り入れて準備をする。
- ・図鑑やセミを折る方法を掲示したり、セミを飾る場所や安全にダイナミックに遊ぶ空間の確保をしたり、子どもの興味や関心に合わせ環境構成の工夫を行う。
- ・虫捕り網やハサミを使用する際、扱い方の指導や約束事を確認し、安全面に配慮して見守りの中行う。



## 《考察》

- ・サークルタイムなどを通して、自分の感じたことや思い、考えなどを言葉で伝ええるようになったことで、保育教諭や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりするようになった。言葉でのコミュニケーションが育まれ、遊びの中で会話を楽しみ関りが深まっていった。
- ・友達と楽しく活動する中でイメージを共有したことで、共通の目的を見いだし、協同性や言葉による伝え合いが活発になり、工夫したり試したり協力したり思いやりの心も育まれていった。
- ・園での遊びが深まることで、休日にも虫捕りをしたいと家族で公園へ行き虫捕りを楽しみ、園へ期待感をもって登園するようになり、遊びが継続し夢中になって遊び込む姿が見られるようになった。
- ・子ども達のイメージや発想を大切にしながら、共通の目的に向かって協同製作をしたことで、友達と一緒に楽しんで活動に参加するようになった。その後、小学校へセミ捕りに行った体験を通して、草木が生い茂るイメージからジャングル探険ごっこ遊びへと発展し、運動会へと遊びが継続していく。「やりたい！」と主体的に遊びを展開する姿が見られ、友達と一緒に夢中になって遊び込むようになった。

(3) 5歳児

## 【虫のお家を作ろう！】

年長児 4月～

### ●育っている力「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- |                        |             |                |                |
|------------------------|-------------|----------------|----------------|
| ① 健康な心と体               | ② 自立心       | ③ 協同性          | ④ 道徳性・規範意識の芽生え |
| ⑤ 社会生活との関わり            | ⑥ 思考力の芽生え   | ⑦ 自然との関わり・生命尊重 |                |
| ⑧ 数量・図形、標識や文字などへの関心・感覚 | ⑨ 言葉による伝え合い | ⑩ 豊かな感性と表現     |                |

※幼児期の育つ力は様々な視点が関連し合って培われる物であるが便宜上関連の深い姿を色で示す

### ●実践事例

### 保育教諭の援助

4月の入園進級当初より、虫が大好きなクラスの子ども達。毎日園庭に出て、虫探しを楽しんでいた。バッタを見つけたり、ビオトープでオタマジャクシやヤゴを捕まえたりして、飼育ケースに入れていた。最初は、動く虫を上手に捕まえられたことに満足し喜んでいた。虫に関心を高めて欲しいとの願いから、写真や図鑑、絵本等を手に取りやすい所に配置した。そうすることで、虫の名前や種類に気付いたり、よく観察し、絵に描いて表現したりする姿が見られるようになり、虫に対する関心が高まってきた。しかし、捕まえることに満足し、世話ををするという意識が低く、何日も飼育ケースに入れて過ごし、死なせてしまう姿が見られた。そこでサークルタイムを取り入れて捕まえた虫を紹介したり、命について話し合ったりする時間をつくつてみた。安心して何でも話していい雰囲気を4月からつくってきたことで、「ショウウリョウバッタを捕まえました」「オタマジャクシから足が生えてきたよ。見て！」と紹介したり、「死んでしまってかわいそう」「お墓を作つてあげよう」「捕まえた後、餌をあげないとお腹すいていたんじゃない」等と自分なりの考えを伝えたりする姿が多く見られた。サークルタイムを通して自分の考えや友達の考えに触れ、生き物への愛情がさらに深まり、大切に扱おうと世話をしたり、観察後は逃がすことも選択肢に入れたりしながら過ごすようになった。



7月になり、セミ捕りへ行こうと計画し、牛乳パックを使って虫かご作りをクラスで行った。廃材を活用して虫かごを作ることができることを知り、園庭で捕まえた虫も市販の飼育ケースのみでなく、廃材を使って試したり工夫したりしながら虫のお家を作る姿が見られるようになった。使いたい時にすぐに見つけられるよう材料や道具の置き方を工夫したり、お家作りを継続して楽しむことができるよう製作途中の作品を崩さずに置いておける場所の確保を行った。サークルタイムでは、工夫した所を発表したり、難しい所を知らせ、みんなからアイディアをもらったりするようになってきた。また、足りない材料等があると保育教諭や友達に協力願いとして「お家にある人は持ってきてください」と自ら発信するようになり、友達と協同して遊び込む姿が多く見られるようになった。戸外遊びの後、室内でもじっくり虫と関わり、虫のお家作りにも没頭できるよう、1日の遊びがつながっていくような保育を計画した。これらの環境構成の工夫を行ったことで、活動が途切れることなく、大好きな虫と思いつきり関わる毎日を過ごしている。



主体的な学びの芽生え

- ②自立心  
③協同性  
⑥思考力の芽生え  
⑦自然との関わり・生命尊重

安心して自分の意見を話す。

- ⑨言葉による  
伝え合い

友達への思  
いやり

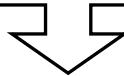
- ②自立心  
③協同性  
④道徳性・規範意識  
の芽生え

自身の振り  
返り

- ③協同性  
⑦自然との関わ  
り・生命尊重

## 《これまでの幼児の姿》

- ・自分の考えはあるものの、それを言葉で表現することが難しい姿があり、遊びが広がりにくかった。
- ・遊びが広がらず継続しなかったため、遊びこめず、転々としている姿があった。
- ・友達の考えに触れる機会が少なかったため、イメージを共有できず、トラブルになる場面も多く見られた。
- ・一人一人の自己主張が強く、相手の気持ちに気付いたり、その考えを遊びに取り入れたりしにくい姿があった。



## 環境を通して行う教育

### 《保育教諭の援助》

- ・子ども達自身で調べたり、考えたりしながら知識を得たり、友達と一緒に意見をまとめる時間を十分に設ける。
- ・気付きや発見をクラス全体で共有できるような時間や場を設ける。また、普段の園生活の中で、安心して自分の意見を言うことができる雰囲気を作る。
- ・すぐに声をかけず、見守りながら自分の気持ちに向き合うことができる時間を作る。
- ・園児のイメージしたものを形にできるよう、材料や道具をすぐ手に取ることができるように配置する。
- ・家庭でも、園での出来事を話題にできるよう、ドキュメンテーションを作成し、配信する。

### 《環境構成》

- ・「なんだろう」「知りたい」等、知的好奇心を高められるよう、虫や植物の写真を掲示する。
- ・虫に関する図鑑や絵本等を手に取りやすい場所に置く。
- ・廃材や道具を種類別に分け、写真等で表示し、見やすいように配置する。
- ・サークルタイムでは、円になって座る等、互いの顔を見ながら意見を出し合えるようにする。
- ・話し合ったことをいつでも振り返ることができるよう紙に書き出し、園児に見えるよう掲示する。



## 《考察》

- ・サークルタイムを継続してクラス活動に取り入れることで、自分の考えや友達の考えに気付き、試行錯誤しながら遊びを進めるようになった。
- ・自分の考えを受け入れてもらったり、友達の考えを聞いたりすることで、伸び伸びと安心してサークルタイムに参加するようになった。
- ・園児同士が協力して遊びを進めていく姿が多く見られるようになり、遊びに広がりが見られるようになった。
- ・家庭でも、園での出来事を話題にし、製作や遊びで必要な材料等を家族と一緒に準備する等、目的意識をもって登園を楽しみにするようになった。
- ・10月になった今も季節によって見られる虫が変わることに気付き、その虫に合わせて虫のお家を作り変えて楽しむ等、長期で遊びが継続している姿が見られる。

### ●小学校教育との関連



安心できる雰囲気の中で自分の考えを話したり、友達や保育教諭の考えに触れたりしながら、遊び込む楽しさや達成感を味わうことは、小学校教育の中でも主体的で対話的な深い学びにつながると考えられる。また、小学校学習指導要領の生活科の目標(2)「身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、それらを工夫したり楽しんだりすることができ、活動のよさや大切さに気付き、自分たちの遊びや生活をよりよくするようになる」につながっていくと考える。

## 《幼小接続に向けた公開保育の実施》

(1)～(3)の実践を牧港小学校区の保こ小連絡協議会の公開保育の中でも実施。

- ・日時：令和7年7月28日（月）9:00～10:00 公開保育 10:00～11:00 協議
- ・参加者：牧港小学校（教頭・1年生～2年生の先生方）・牧港こども園保育教諭・近隣園の先生方
- ・保育実践：【3歳児】チラシで紙飛行機作り  
【4歳児】虫捕りごっこ・ごっこ遊びに使う物の製作  
【5歳児】実際に虫捕りを行い、虫の家作り
- ・協議内容：公開保育を参加者で振り返る。協議で出てきた子どもの育ちを小学校以降の学習にどのようにつなげていくか話し合う。
- ・協議を終えて：小学校の先生方から、幼児期からサークルタイムを通して、「主体的で対話的な深い学び」を行っていることを知ることができ、小学校以降の学習にどうつなげていくか今後考えていきたいとの話があった。  
近隣園の先生方からは、サークルタイムを取り入れた活動内容が遊び込むにつながっていて、ぜひ自分の園でも取り入れていきたいとの話があり、サークルタイムの効果を共有することができた。

## 7. 成果と課題

### (1) 成果

- 遊びの中でも、友達同士の対話が増え、一緒に試行錯誤したり、協力したりしながら継続して遊び込むようになった。
- サークルタイムを通して園児の思いを聞き取り、ともに環境を整えることで、興味関心が高まり、やりたいことを見つけて、主体的に活動に取り組むようになった。
- 自分の気持ちに気付いたり、自分と違う意見があることを知ることで、互いに認め合い、良さを生かしながら遊びを進めていくようになった。
- 遊びの中で、新たな発見に楽しさを見いだし、探究心が高まった。
- 自分と同じ遊びをしている友達に気付いたり、違う遊びや新たな発見をしたりできるような援助を行ったことで、協同して楽しむようになった。
- ドキュメンテーションを作成し、園と家庭での遊びが共有・継続するようになったことで、期待感をもって登園するようになった。

### (2) 課題

- クラス内での遊びやサークルタイムを深めることができたが、異年齢との交流がさらに深まるようにサークルタイムを活用しながら環境構成の工夫を行っていきたい。
- 3年保育の良さを生かし、今後も継続してサークルタイムを取り入れ、自分や友達の思いを話したり聞いたりしながら、子ども達のやりたいことを実現できるよう援助を行っていきたい。

## 〈参考文献〉

- ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解』内閣府 文部科学省 厚生労働省 平成30年
- ・大豆生田啓友 豊田トモ『子どもが対話する保育「サークルタイム」のすすめ』 小学館2022
- ・高橋健介 『保育における子どもの遊び』 中央法規出版株式会社 2024